都城市立図書館

〒885-0071　宮崎県都城市中町16街区15号
電話 0986-22-0239　ファクス 0986-22-0251
info@mallmall.info
http://mallmall.info/library.html

利用案内

開館時間　9:00－21:00
閉館日　　定期休館 なし（ただし、施設の保守点検、図書整理等に伴い臨時休館することがあります）

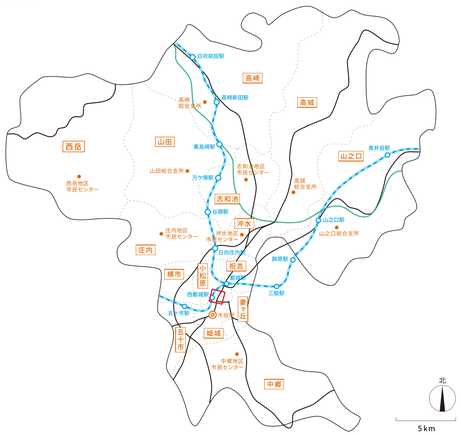
赤ちゃん連れの方・お身体の不自由な方へ

ベビールーム（授乳室）、おやこトイレ、だれでもトイレがあります。メインエントランスに、貸出用車椅子、貸出用ベビーカーがあります。ようこそデスクにはAED（自動体外式除細動器）を備えています。お手伝いが必要な方は、入り口にあるインターフォンでスタッフを呼び出してください。目の不自由な方で館内へのご案内が必要な場合は、視覚障害者誘導用ブロックに従って、ようこそデスクにいらしてください。
活字文書読み上げ装置、拡大読書器、スタンドルーペを備えています。

諸元データ

敷地面積：5,366平方メートル
建築面積：4,815平方メートル
延床面積：8,046平方メートル（未来創造ステーション部分は除く）
座席数500席以上、所蔵資料約30万冊（うち、開架約14万冊）

都城市全図



図書館周辺市街地

交通

電車：JR西都城駅から徒歩12分　タクシー4分
車　：［鹿児島方面から］国道10号「中町」を右折し、次の交差点を左折すると標識あり
　　［高城方面から］国道10号 鹿児島銀行前を左折し、次の交差点を右折すると標識あり
　　中核施設附帯駐車場218台　図書館利用者は最長3時間（2施設以上6時間）無料
バス：「市立図書館前」「中央待合所」「中央通り」バス停下車すぐ

1903

空間の記憶

既存の社会資本の有効活用がますます求められています。図書館の建物も、ショッピングモールとしてつくられた建築の再生（リノベーション）であり、転用（コンバージョン）です。転用とは、言い換えれば「見立て」です。「見立て」とは物事の意味の創造的な読み替えであり、日本的な美学でもあります。例えば、枯山水庭園において敷き詰められた白い玉砂利は、川や水面に見立てられます。今回は、ショッピングモールを図書館に「見立て」たと言えます。かつての商業施設は構造体を残して解体され、内外装が更新されて公共施設＝図書館として生まれ変わりましたが、その空間自体にも、わたしたちのまちの歴史や記憶が宿っています。図書館内のそれぞれの場所が、ショッピングモールのどんなところだったのか想像し、思い出しながら、散策してみてはいかがでしょうか。

家具がつくる空間

ショッピングモールの大空間を生かして壁はなるべくつくらず、書架をはじめとした大小の家具によって、多様な場を生み出すデザインとしています。プレススタジオの展示台や、MAGAZINE WALLのような特徴的な家具に加え、野菜や果物を入れる市場の木箱のように、自由に並べ替えることのできる木箱架を、都城家具工業会の協力のもと開発しました。全国の約80%が九州に植生している、防虫効果のあるクスノキの特徴的な木肌を生かした箱型の書架です。おすすめ本を並べたり、季節やテーマに応じた配置をしたり、創造性に富んだ図書館の象徴ともいえます。その日の木箱架に並んだ本やメッセージカードを眺めながら歩くだけでも、きっと多くの発見があることでしょう。

発見と創造を支える空間

人々が自由に行き交い、個々の興味に応じた「だいじなもの」の発見を支える場の実現のため、中心を貫く廊下部分を人々が賑やかに行き交う市場のストリートに見立て、木箱架がずらりと並ぶ楽しいショップフロントをつくりました。ストリートを散策しながら、ふと一冊の本に惹かれたら、あたかも専門店に足を踏み入れるように、ぜひその奥へお進みください。分野ごとに明解に分類し配架された一般書架が整然と並んでいます。インテリアは、地場産材を中心とした杉やクスノキの素の木材の存在感が最大限感じられるよう、素材や配色を慎重に検討しました。例えば、1階は黒・グレー系で内装をまとめ、ホテルのラウンジのような落ち着いた色調のなか、木製の家具や本が浮き上がるような空間としています。利用者のみなさんとともに、地域の文化や記憶を継承し、新たな創造を育む図書館にふさわしい場に発展していくことを願います。

アイダアトリエ　会田友朗（空間デザイン総合監修）

Mall Market

カフェショップについて

小さな1店舗なのに、「市庭（いちば）」という名前です。おかしいですか？ でもこれには理由があります。
市庭には、「いいもの」を誰かに届けたいという人が集まります。市内で「いいもの」を生産している人（1次産業者）、「いいもの」に加工している人（2次産業者）、「いいもの」を扱っている人（3次産業者）。みんなが連携（6次産業化）して、みやこんじょの「いいもの」を、見た目や浮いた言葉の宣伝広告ではなく、「いい」点をきちんと伝え合っていく場。いいものを見つけに人が集い、食を通じて交流し、新しい地域の姿を創造していきます。

オリジナル製品の木箱架「つみ木ばこ」、BGMのCD、「だいじなものノート」も販売しています。

MIYAKONOJO CITY LIBRARY

都城市立図書館

「本は書かれている内容より、読んだときに『名付けようもない大事なもの――something』を思い起こすことがある。
それが大切だということを、この歳になって、ようやく気づきました。」
（長田 弘　2011年講演会「本とは何か」より。1939–2015、詩人、児童文学作家、文芸評論家、翻訳家、随筆家）

GOOD DESIGN AWARD
2018年度受賞

ひとりひとりが『だいじなもの』をみつけていくために

だいじなもの。

それは、思い出だったり、美しい場所だったり、
憧れるモノだったり、大切な人だったり、
継いでいくべき技であったり、
夢や希望といった見えないものもある。

ひとりひとりが自ら『だいじなもの』を見つけていく活動、
表現していく活動 ――

これが、日々の暮らしをいきいきとさせ、
地域の文化や生業、まち、風土といったものの
継承や発展、より独創的な創造につながる。

そのための、私たちの図書館。

サービス一覧

本の貸出・予約・リクエスト
調べもののお手伝い
子ども、青少年の居場所づくり
おはなし会、読み聞かせ支援
学校図書館の支援
移動図書館車の運行
団体貸出、文庫活動支援
対面朗読・録音スタジオの運用管理
地域のためのコンテンツ編集・管理
各種展示会や映像コンテンツの上映
講座、講演会などイベントの開催

シンボルマーク

ショッピングモールとしてつくられた建物が図書館に生まれ変わりました。
そこでMALLという文字を使った丸い形のシンボルマークが、中心市街地中核施設の愛称Mallmallのロゴデザインや図書館内のサイン表示を担当したグラフィックデザイナー井口仁長氏によってデザインされました。

生きがい・広がる・図書館。
Miyakonojo Augmented Library for Living

ようこそデスク

２つの入り口を入ると見えてくるのが、ようこそデスクです。図書館内やさまざまなサービスのご案内をいたします。お気軽に声をかけてください。

案内台

幅2m25cm、奥行き1m50cmという大きな平台に描かれた館内マップ。この前で、『今日はどこに行って何を見つけようかな』と考えてみてください。そんな「心のチェックイン」をおすすめします。もしも思い浮かばない時は、天井から吊り下げられたメッセージカードが、イベントや企画を紹介してくれます。

見つけるスタイルいろいろ

インデックス［さくいん］

百科事典や図鑑のうしろに付いている、項目名のあいうえお順、ABC順で掲載ページが引ける索引。インデックス［さくいん］は図書館内の索引です。4面で最大約2600語を並べることができます。でも、図書館は小宇宙のようなもの。ここにあるすべての言葉は天文学的数字。そこで、多くのひとにとって知っておくべきこと、ある特定のひと向けだけれどとても役立つ大事なこと、知らないと困ること、流行っていることなど、定期的に言葉を選び、足したり引いたりしながら、生きた索引をつくっています。

インデックスワード

並べられたインデックスワードを眺めてみましょう。知りたい言葉があれば探してみてください。気になるものが見つかったら、手に取ってください。裏面がスタンプになっているので、持っているノートやメモ用紙にポンと押して、あなた自身が気になる言葉を収集することができます。文字の下にある2次元バーコードで、館内にあるタブレット端末「大事なものメモリー」や、お手持ちのスマートフォンなどの2次元バーコードリーダーアプリから、本をご案内します。

大事なものメモリー

大事なものメモリーは、館内にある本や資料についているバーコードや、インデックスワードの2次元バーコードを読み取ることができます。本に関する情報や書架番号などを表示します。さらに、図書館利用カードに書かれている番号と任意のパスワードでログインすると、館内の本を、「読んだリスト」や、「気になるリスト」、「大事なものリスト」に登録できます。自分のリストはログインすると見ることができます。
また、読んだ本の登録、感想の入力などで「アクションポイント」が貯まるので、個人の活動指標として楽しみながら図書館を活用してください。

検索機

本を調べるためのタッチパネル式のパソコン端末です。

インターネット端末

インターネット上のウェブサイトを調べるためのパソコン端末です。

相談デスク／そうだんカウンター

図書館がとても重要だと考えているサービスに「相談」があります。本に関する相談や、どのように調べたらいいかがわからないような情報に関する相談などをお受けいたします。
1階には3席の個別の「相談デスク」、2階にはゆったりとした「そうだんカウンター」をご用意しています。

プレススタジオ

これまで知ることを支えてきた図書館ですが、実は「知ること」と「表現すること」は表裏一体です。そこで、図書館に、表現することを支える場所をつくりました。それがプレススタジオです。ここではさまざまに表現されたものが生み出されていき、さらに知る機会を広げていきます。編集者、ライター、デザイナーなどのスタッフが、「大事なもの」をまとめていく表現活動をお手伝いいたします。特に地域や社会の資産にもなるような形への編集・共有支援を積極的に行っていきます。

レーザーカッター

主に新しいインデックスワードのスタンプをつくる時に使用します。レーザー光線で、スタンプ用ゴム板、薄手のアクリルや木の板、紙などの切断や彫刻ができる加工機です。

ブックマシーン

エスプレッソ・ブック・マシンとも呼ばれている、簡易自動製本機です。折りやパンチ、ステープルなどの加工まで自動化できます。プレススタジオでオリジナル小冊子をつくる時に使用します。

データベース

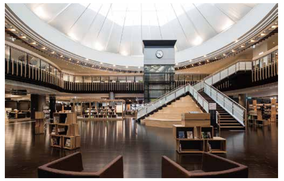
取材やオリジナル資料の制作を行う過程で、文章や写真、映像、音声などの素材が生まれます。これらをデータベース化し、著作権や利用ルールとともに格納、管理していきます。こうして、貴重な素材を権利を侵害することなく、条件の範囲内でいつでも利用することができます。

展示台

展示台では、プレススタジオで編集した地域の情報や館内での活動記録を、シートや冊子、パネルで展示。市内の他施設・機関、周辺地域、全国で発行されたもので共有しておくべき資料を並べることもあります。
使われている木材は、宮崎県木材利用技術センターで研究されている県産の杉板を材料としたCLT（Cross Laminated Timber：直交集成板の略称）と呼ばれるもので、中高層建築物等への利用が期待されている建材です。その研究過程で発生した残材をいただき、木目や肌触りを感じる心地のいい展示台によみがえらせました。

地図黒板

都城市全体の地図と、図書館周辺を拡大したまちなかの2つの地図が描かれた黒板です。
内容は随時更新しています。多くのひとと共有した方がいい情報は、インデックスワードとして登録され、リンク先を示す2次元バーコードを添えて地図上に貼り付けられることもあります。

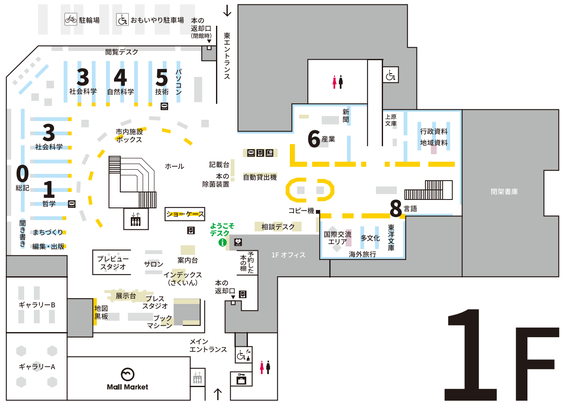


ホール

建物の中央にある、天井からやわらかく自然光が降り注ぐ吹き抜けの広場的空間です。ここでは、時には講演やワークショップといったイベントも行います。
図書館内は、「静かにしていなければいられない」ということがないように、基本的に静寂を求めず、多くの方が心地よいと感じる中庸な環境を目指します。ページをめくる音、キーボードを打つ音、子どもの声も自然な、みんなの居場所です。

ショーケース

ようこそデスクの前にある、杉角材フレームと強化ガラスで囲まれた幅約2m、高さ約2m、奥行き約6mの展示ケース。見計らい本と呼ばれる購入前の見本の本を並べて、みなさまからの声を聴く場所です。時には展示場所として使用されることもあります。



1F

聞き書き

質問をしながらそのひとの言葉を書き留めていく「聞き書き」。図書館でも聞き書きの手法を使い、ひとりひとりの中にある「だいじなもの」を記録していく活動を行います。その第一人者である作家の塩野米松氏の協力により、全国の市民グループが制作した作品を集めた「聞き書きエリア」もあります。

プレビュースタジオ

「プレビュー」とは映画・映像作品の試写を行うこと。プレビュースタジオは映像・音声・写真スライドなどのコンテンツをより多くのひとに視聴して頂くための空間です。

エントランスサロン

ホテルのエントランスロビーのような空間です。待ち合わせにも気軽にお使いください。

選書

購入する本を選ぶことを「選書」といいます。選書は図書館にとって最も重要な仕事のひとつです。都城市立図書館では管理運営事業者が購入候補案をつくり、市教育委員会で最終決定をします。オフィスの中にある選書専用スペースばかりでなく、ショーケースによって利用者のみなさまの声を積極的に聴き、共に考え、“公民共に育てていく図書館”を目指していきます。

ギャラリーA･B

展示、映画上映、講演、講座、シンポジウム、ワークショップなどを行います。2室一体利用することもできます。イベントがない時には閲覧・学習席や、コミュニケーションスペースになります。
折り畳めるひとり用テーブル60台、スタッキングチェア100脚、展示用パネル10台、プロジェクター、ミキサー、アンプ、スピーカー、ワイヤレスマイク、映像プレーヤーなどを備えます。

歩いて楽しいストリート

かつてのショッピングモールの中の通りは、歩くことで新たに何かを見つける楽しいストリートでした。通りに並んだ専門店の店先には、店内にあるものがわかるような展示、おすすめのものが並べられていました。よみがえったストリートの「店先」には、マルシェの木箱をモチーフとした偶然の出会いのある木箱架が並んでいます。

市内施設ボックス

ホールに円形に配置された木箱架では、市内にある施設を紹介しています。各施設のみなさまにご協力を頂き、施設からのお知らせ、イベントの情報、チラシ、サービスの紹介、オススメの本などが置かれています。ホールをぐるりと歩けば、市内の施設のことが一通りわかります。

年表書架

2階の円弧の形の書架には年代順に歴史の本が並べられています。上段が日本、中段が都城市周辺、下段が世界。まさに歴史年表のような書架。
都城市周辺の歴史に関する本は、1階の地域資料コーナーにも置いてあります。

上原文庫

都城市出身の上原勇作氏の陸軍大臣就任を記念して設置された文庫です。明治・大正・昭和初期に発行された貴重な書籍や雑誌類が保管されています。

閉架書庫

1階南側エリアには閉架書庫があります。限られた書庫の収蔵能力を高めるためにレール上に書架列を可動させる電動式集密書架で資料保存を行っています。

静かな部屋

本を読む際に静かさを大事にされている方、静かに読みたい気分の時にご利用頂くスペースです。パソコンのご利用もご遠慮頂いています。

国際交流エリア

都城市と友好交流都市提携を行っている中国重慶市江津区およびモンゴル国ウランバートル市をはじめ、世界の国々の方との交流、市内に在住する海外出身の方に役立つ資料が置かれたエリアです。

おだやかな席

ほどほどの静かさ、ほどほどののどかさ、ほどほどの自由さのある閲覧席です。お手持ちのパソコンもご利用頂けます。

リビングのような席

「こどものほん」とテーマ書架との間にある、子どもと大人が一緒に本を読むことができる席です。ベビーカーを席の脇に停めて頂いても大丈夫。暮らしに役立つチラシ置き場もあります。

ティーンズスタジオ

10代の方優先のスペースです。同世代のひとたちと、ゆずり合い、助け合い、認め合いながらも、個性豊かなひとりの人間として成長していくための居場所です。

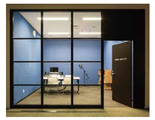
…

大人が行うような本格的な活動（プロジェクト）への参画が、子どもを成長させる鍵。国連子どもの権利条約でも、子どもを保護の対象としてではなく、権利の主体者としてみています。そのためには文化的なアイデンティティの表現をつくりあげることに集中する過程が必要です。
「自分の着る服を選んだり作ったりすること（中略）をやらせてもらえなかった子どもは、コミュニティの環境の改善に自分が関わることができるとか、関わるべきであるという気持ちをもつことが少ないようである。」（ロジャー・ハート著、木下勇ほか監修、IPA日本支部訳『子どもの参画』萌文社、2000年、30ページ）

こどものにわ

幼児から児童まで、子どもたちが自由に使えるガラス張りの「にわ」です。子どもの感性を育む活動「こどものにわ」を主宰するアーティスト 柳田拓哉氏が監修する「感性を育む道具箱」が置かれています。道具箱や本を通して「これなんだろ？ やってみよう！」から「できるかも！」と子ども自らで思い、成長していく経験の場。本に描かれている絵の色や形、紙にもどんどん興味が広がります。

対面朗読・録音スタジオ



目の不自由な方に向けて、図書や雑誌、お持ちになった製品取扱説明書、手紙などの対面朗読、音訳ボランティアによる録音図書の制作など、情報の音声化やコンテンツ制作に伴う録音・編集作業を行う部屋です。

プロジェクトスタジオ

プロジェクトスタジオは、市民による市民のための活動を行う部屋です。生活上の不便の解決、楽しい取り組み、交流イベント、未来のための新しいアイデアなど、地域をよりよくする活動をプロジェクトとして実践していく場です。

おべんとうコーナー

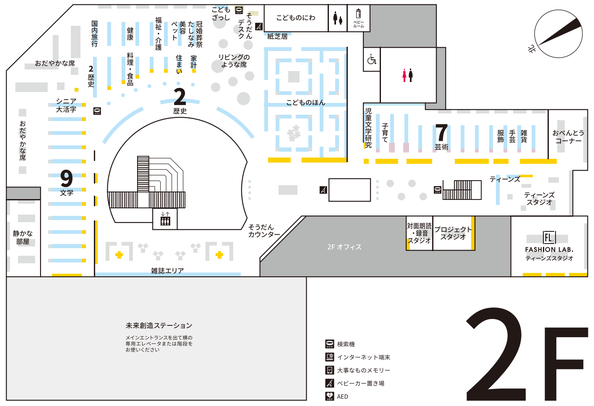
滞在できる図書館として、お弁当が食べられる場所です。清潔に保つため、ゴミはお持ち帰り頂いています。

携帯電話通話

1階カフェ前の通路、および2階トイレ前の通路で通話できます。

Fashion Lab.

「ファッションブランドデザインが生み出されていく研究工房」という設定でつくられたティーンズスタジオ内にあるスペース。手作業を活かした染めやプリントを施した服づくりに定評があるファッションブランド「spoken words project」が全面協力。Tシャツやワンピース、バッグなど身につけるもののプリントデザインや形、使い方を考え、実際にものをつくることができます。作業がない時にはおしゃべりもできる居場所スペースになります。
プロモーション用撮影や、ポスター、紹介する冊子の制作、ファッションショー、カフェショップでの販売などプロジェクトベースの実践を行い、社会への段階的な参画機会を提供していくことを目指します。



2F

メッセージカード

気づいていない本。知らない世界。自分にはいったいどんな選択肢があるのだろうか。「そんなあなたへ」と語りかけるメッセージカードが本に添えられています。図書館であなた宛てのメッセージをぜひ見つけてください。読まれることを待っている本たちを紹介してくれます。

書架の分類のはなし

日本の多くの図書館で用いられている分類法は、「0」から「9」の数字を用いる日本十進分類法（NDC）。たとえば、「文学」は「9xx」、「日本文学」は「91x」、「（日本文学の）小説・物語」は「913」といったように小数点以下まで細かく分類されています。本図書館でもNDCを採用し、整然と並べることによって検索性を高めつつ、木箱架での例示によって直観性も確保しています。
また、日常的によく使うテーマは、NDCを用いながらも本屋さんのように独自の分類で配置しています。

移動図書館車「くれよん号」とBM書車

移動図書館車「くれよん号」は、市内の各地域に本を届ける大切な作業を行っています。道で見かけたら、応援よろしくお願いします。「くれよん号」は専用の書庫（BM書庫）を持っていて、団体向けの貸出も行っています。大型絵本も置いてありますのでぜひご利用ください。
＊BMはブックモービルの略です。

MAGAZINE WALL

雑誌エリアには、所蔵する約160タイトルの雑誌が壁一面に並んでいます。バックナンバーもすぐ下に積んであるので、見つけやすく、さっと手に取ることができるようになっています。これまでは意識したこともなかった雑誌にたくさん出会ってください。